

青少年ふくしま

福島県青少年育成県民会議
第48号

平成27年8月25日(火)

残暑お見舞い申し上げます。

ようやく「猛暑」も鎮まってきましたが、会議員の皆様にはご健勝に活躍なさっていることと存じます。夏休み中、学校から家庭・地域にもどった子どもたちを陰に陽に見守ってくださった方も多いと思います。「地域の子どもは地域で見守り育てる」運動等を地道に継続していらっしゃる会議員の皆様方に心から敬意を表しております。

本県民会議の重点推進事項「大人が変われば子どもも変わる」県民運動の一環として「大人が変わるためのセミナー」を実施しております。「青少年ふくしま」47号では第1回セミナーの概略をお伝えしました。そこで、48号では第2回セミナー（福島県青少年会館で開催）の内容をお知らせいたします。（紙面の都合上、概略的な記録です。）

平成27年度第2回大人が変わるためのセミナー（パネルディスカッション）

開催日時：平成27年7月25日（土）

テーマ：青少年問題を抱える家族・地域へのアプローチ

パネリスト：熊坂律子氏（福島県保護観察官）

中鉢博之氏（NPO法人ビーンズふくしま理事）

コーディネーター：根本文弘氏（前福島県青少年総合相談センター相談員）

<熊坂氏より>

保護観察の事例1：17歳男子→パートナーと母親への暴力

要因：本人の意思と親の考えが相容れず一方的に指示（命令）されたことへの反発

保護観察の事例2：15歳男子→窃盗その他の非行と立ち直り

要因：実母の養育態度による不良化、震災後の家族離散、実父の過干渉等による精神不安定

二つの事例から～

- 親の都合や損得勘定等で子どもは大きな影響を受ける。
- 親以外の家族が愛情をもって支援し協力する意義は大きい。→協力を得る方法は？
- 親子、夫婦であっても「忍耐」は大切。

<中鉢氏より>

・「NPO法人ビーンズふくしま」：不登校、ひきこもり、ニートの本人・親の支援

・不登校(小中学生)：震災後減少(命・絆・家族の意識高揚)

→4年経過して再び増加←どんな「価値観」を重視してサポートするか、がポイント

・「ニート」：本人、家族の問題とともに経済・社会問題の原因増←体験や活躍の場減少



・「ひきこもり」：成人後の就活失敗、職場への不適応（県内に 3000 人以上 8200 人とも）
現状から～

○「ひきこもり」者が社会に出る←家族や地域でサポートする人を増やす方策。

<根本氏より>

- ・「ひきこもり相談」件数の急激増加←人口問題（自治体消滅）：コミュニケーション消滅
- ・福島市でも空家は確実に増加している。
- ・マンションやアパートの若者は地域に出ようとしない。

『「子供を殺してください」という親たち』（押川剛 著 新潮社）の事例等から～

格差社会、利己主義等家庭・社会の変化の中でどう対応したらいいか。

<フロアより>

- ・小名浜の実践例：小4～高校生対象に登録・予約なしの「居場所づくり」←地域のボランティアが子どもたちの心に寄り添った。（週4回）⇒高校生が落ち着きを取り戻した。
- ・世代間交流の事例：小学校長現職時代、地元の学習センターと連携したり、「少年の主張」発表会では年配者と小6年生が分科会でともに意見を交換できるようにしたりして成果があった。
- ・異年齢交流の提案：現在運営されている「居場所」の中で上級生が下級生に学習を教え、ポイント制で図書カードをあげる等の方法を考え実践すれば成果が上がるのではないか。



・「小さな会」から始めた事例：たとえ「限界集落」でも、「会」ができればコミュニケーションが生まれる。→「レディース会」いわゆる「婦人会」ではなく村の女性が気軽に交流できる会となっている。

・里親実践事例：何をやりたいか分からない若者→4～8か月継続
→**自立**←ジョブトレーニング（ハウス農家の仕事）・送り迎え・食事提供・説諭等の継続（手間のかかる、根気のいる関わり）

コーディネーターのまとめ

- 総合相談・支援センター等とスペシャリストの連携が重要。
- 単なるコミュニケーションから「**日常の信頼関係**」を。←**まず大人がモデルになる!!**

山梨県北杜市「駄楽庵（だらん）」のちらし

悲しい人は 泣きに来てください
うれしい人は、歌を歌いに来てください
さみしい人は、おしゃべりに来てください
楽しい人は、はしゃぎに来てください

こんな家庭やカウ
ンセリングを!!

**第3回大人が変わるためのセミナー（講演会）：10月17日（土）13：00～14：45 会場：
棚倉町立図書館 詳細はチラシに記載 お誘いあわせて、おいでください!!**